

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/09/01～2019/09/30)

1. 勉学の状況

今月は大きめのレポートを2つも出さなければならなかったため、とても忙しい1カ月でした。毎週出される大量の読み物の課題をこなす一方でレポートの執筆もしなければならなかったのに、全部をやりきるのには時間が足らず、今回初めて、学部独自(?)の“2-day-extension”という制度を利用しました。この制度を利用すると、病欠などの特別な理由が無くても課題の締め切りを2日分伸ばすことができます。レポートをはじめとする課題は、提出が締め切りに遅れると遅れた日数分だけ点数を下げられてしまい、単位取得がかなり難しくなってしまいます。そのため、どうしてもさらなる作業時間が必要となるレポートなどの大きな課題で、この制度を利用する生徒は多いようです。前期でもこの制度は利用できたのですが、当時はそこまで切羽詰まった状況でもなかったので一度も使いませんでした。しかし、対象学年が一つ上がったクラスを取るようになってより多くの課題に追われるようになった後期では、この制度がとても助けになりました。申請方法は簡単で、自分を担当してくれているチューター教員、もしくはその授業に所属しているチューター達のリーダーであるヘッドチューターなどに「2-day-extensionを申請したい」という旨のメールを送るだけです。ただし、申請することができるのは本来の締め切りの2日前（休業日は含まれない）まででした。申請が通ると、Moodle上の提出期限日も先延ばしされたものが表示されるようになります。授業によっては申請をせずとも自動的に締め切りが先延ばしにされているところもありました（実質、その制度が採用されているというよりは、予めその2日後の締め切りで固定されているというような感じでした）。この制度はどの課題に取り入れられているわけではなく、Moodle上の小テストといったそこまで負担が大きくないものや、授業期間終了日が締め切りとなっている課題などは、対象外であることも多々あります。利用する前は「そんな2日分伸ばしたところで負担は変わらないだろう」と高を括っていましたが、本当に忙しい時ほど、その2日間がとてもありがたいものでした。

今月も、ディスカッションではあまり思ったようにいかないことの方が圧倒的に多かったです。前期も感じたことですが、相互的なやりとりというよりは、私が一方的に助けられているような感じでした。例えばオーストラリア独自の法律といった、現地に長く住んでいる人にとっては常識的なものでも海外から来た私にとってはあまり馴染みのない話題が上がった時には特に困惑してしまいます。そういう時に地元出身の学生が分かりやすく内容を噛み砕いて説明してくれるときもあったのですが、そうなってしまうと結局私への説明でその時間が終わってしまい、なんだか申し訳ない気持ちになります（50分間のチュートリアルも長いようでいざ過ごしてみるとすぐに終わってしまいます）。もうちょっとなんとかならないものかな、と自分でも考えてみるも、手詰まりな感じです。日常会話であまり困ることが無くなってきた分、余計悔しく感じます。



日本では見たことない白黒のカラスみたいな鳥がそこら中に沢山います

2. 生活の状況

帰国日まであと 2 ヶ月ほどになったので、そろそろ出発の準備について考えるようになってきました。こちらで色々なものを購入しているので、全部を持ち帰るわけではないにせよ、行きよりも荷物の量が多くなっているのは確かです。国際郵便を利用して日本の家に荷物を送ってもらうことも考えているのですが、それとは別に荷物を詰めたスーツケースを 2 つ飛行機に持ち込むことにしました。行きの飛行機ではスーツケースは 1 つしか持ち込めなかったのですが（そこに荷物を詰め込み過ぎて重量オーバーして超過料金を取られました）、航空会社の違う帰りの飛行機では 2 個まで無料で持ち込めるようです。新しくスーツケースを買うことになるので、持ち込み無料とはいえ、国際郵便よりもかえってお金がかかってしまうのかもしれませんが、出発のギリギリまで荷造りをしたい自分にとっては、色々な手配が必要になる郵便よりはこちらの方が良いかと思い、結局スーツケースを購入してしまいました。とはいえ、スーツケース 2 つをもってしても全てを持ち帰るのは難しいと思うので、今から少しずつ前期の教科書などもう使うことのないものは、全体の荷物の量を計りながらダンボール一箱分にまとめて郵便で送ってしまおうかと思っています。